

ブラジル中銀は市場予想上回る0.75%の利上げ決定

- ブラジル中銀は市場予想を上回る0.75%の利上げを決定。燃料価格上昇などによるインフレ・リスクの高まりが背景。
- 中銀は金融政策の「部分的な正常化プロセスの開始」を表明。市場は22年末に5.50%まで利上げが進むと予想。
- ブラジルでのコロナ感染拡大を受け、ブラジル景気の先行き不透明感高まる。3月に経済活動が縮小に転じた可能性。
- 議会は一定の財政規律を維持しながら、緊急支援法案を成立させる。当面は財政支援策による景気下支えに注目。

ブラジル中銀は0.75%の大幅利上げを決定

ブラジル中銀は3月17日の金融政策委員会(COPOM)において、市場予想(0.5%)を上回る0.75%の利上げを決定しました(政策金利は2.75%へ引き上げ、図1)。

大幅利上げの背景にあるのはインフレ・リスクの高まりです。燃料価格上昇などから、2021年2月の拡大消費者物価指数(IPCA)は前年比+5.2%へ上昇し、ブラジル中銀は2021年末のインフレ予想を1月会合時点の+3.6%から+5.0%へ上方修正しました。これは2021年のインフレ目標レンジ(2.25%~5.25%)の上限に近い水準です。

ブラジル中銀は声明において、「異例の規模の金融緩和策を縮小することで部分的な正常化プロセスを開始することを決めた」と述べ、次回5月会合でも0.75%の追加利上げを行う可能性を示唆しました。

直近の市場予想では、ブラジル中銀の政策金利は2021年末には4.50%、2022年末には5.50%まで引き上げられると見込まれています。

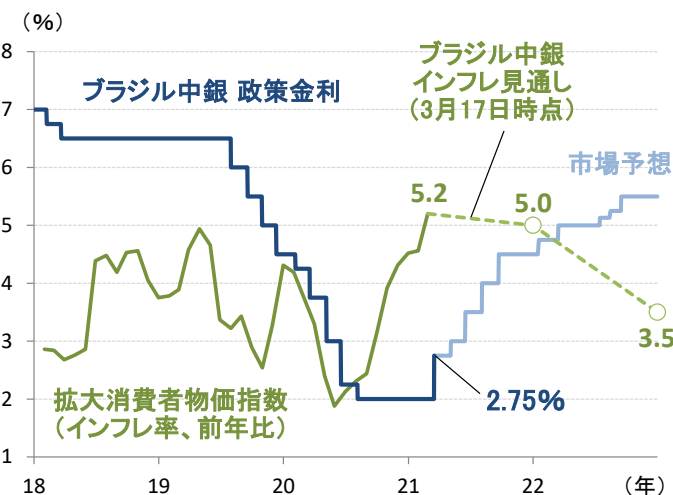
コロナ感染増でブラジル景気の先行きに不透明感

一方、ブラジルの景気動向については、足元までの経済指標ではブラジル経済の回復基調が維持されてきました。しかし、最近のブラジル国内での新型コロナウイルスの感染拡大(2頁図3)と主要都市での外出規制強化の影響から、目先のブラジル景気の先行きに対する不透明感が高まりつつあります。すでにモビリティ指数などの先行指標は2021年3月に入ってから急低下しており、足元の経済活動が縮小している可能性が示されています(図2)。

これに対して、ブラジル議会は一定の財政規律を維持しながら440億リアル(約8,400億円*)規模の緊急支援法案を3月11日に承認・成立させており、当面は財政支援策によって景気が下支えされるかに注目が集まりそうです。

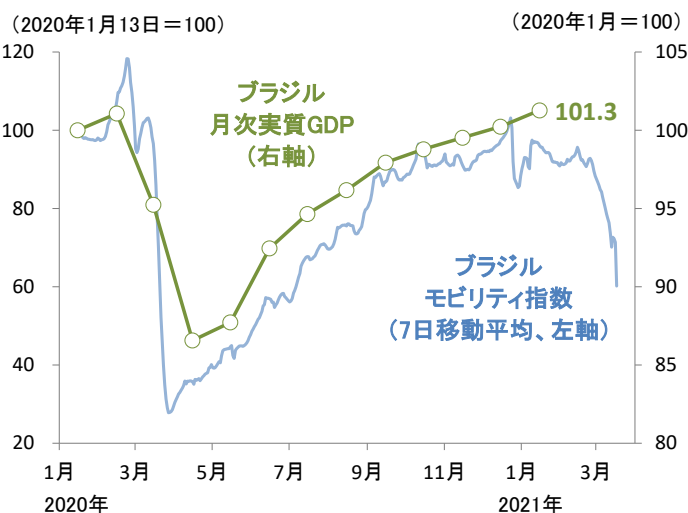
(注)為替換算レート:1リアル=19円

図1:ブラジル中銀の政策金利とインフレ率の推移



(出所)ブラジル中銀、ブラジル地理統計院
 (期間)政策金利:2018年1月1日~2021年3月17日
 インフレ率:2018年1月~2021年2月
 (注)政策金利の市場予想は3月12日時点。

図2:ブラジルのモビリティ指数と実質GDPの推移

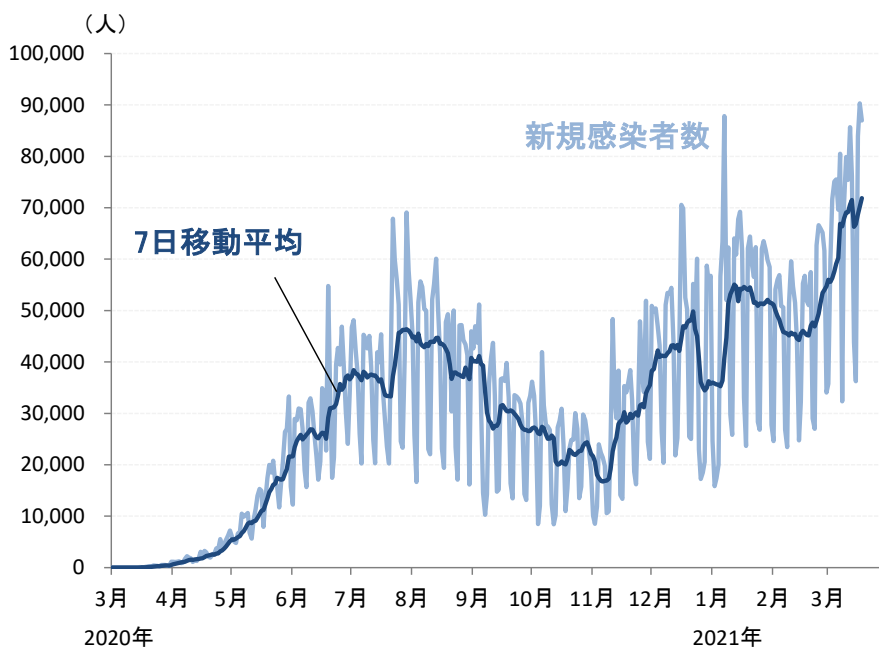


(出所)ブラジル中銀、アップル、CEIC
 (期間)実質GDP:2020年1月~2021年1月
 モビリティ指数:2020年1月19日~2021年3月17日
 (注)モビリティ指数は自動車、公共交通機関、徒歩の移動量の平均値。

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。●レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。



図3: ブラジルの新型コロナウイルスの新規感染者数の推移



(出所)ブラジル保健省 (期間)2020年3月1日~2021年3月18日